

旭川新藤田イーナガーデンエリアは、損保会社の水災（降雨）危険度の判定はDランクで安心安全な住宅地です。

また地盤調査の結果では推定地盤強度は  $40\text{KN}/\text{m}^2$ 以上で改良工事は必要がない強い地盤です。さらに土質と地下水判定から液状化の可能性は低くその対策は必要がないと判定されています。

強風災害についても、東は手形山が、西は天徳寺山がそれぞれ伸びて、平地や高台と違い台風などによる危険度も極めて低いと思われれます。おだやかで住みやすい住宅地です。

#### 〈水災危険度参考資料〉

2 ページ目 旭川 （イーナガーデン旭川）

3 ページ目 鬼怒川（茨城県常総市三坂町）

住所: 秋田市旭川新藤田西町4  
 経度: 140.127 緯度: 39.741

## 24時間降水量に基づく水災危険度診断

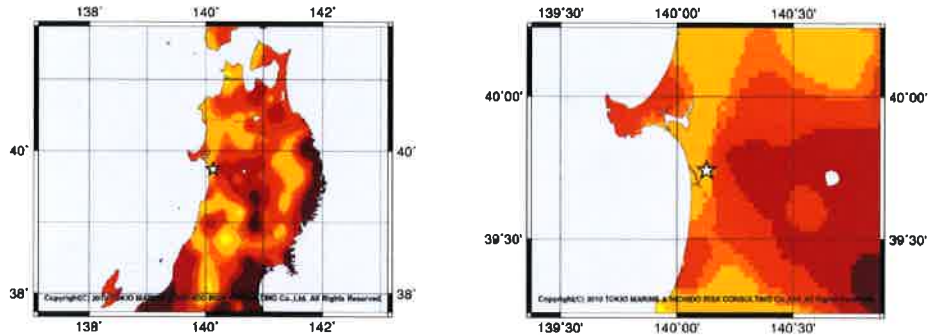


図1 今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率の分布図※

今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率

危険度E	危険度D	危険度C	危険度B	危険度A	危険度S
0%	0.1%	3%	6%	26%	50%
					100%

※ 出典: 気象庁による異常気象リスクマップデータ (<http://www.data.kishou.go.jp/climate/riskmap/dbindex.html>) を元に東京海上日動リスクコンサルティング(株)が作成

### 危険度 D

今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率は、約1%です。

(降水量に基づく診断結果であり、診断地点と周辺地域の高低差や地域の排水能力、周辺河川の状況などは考慮していません)

#### 〈危険度の定義〉

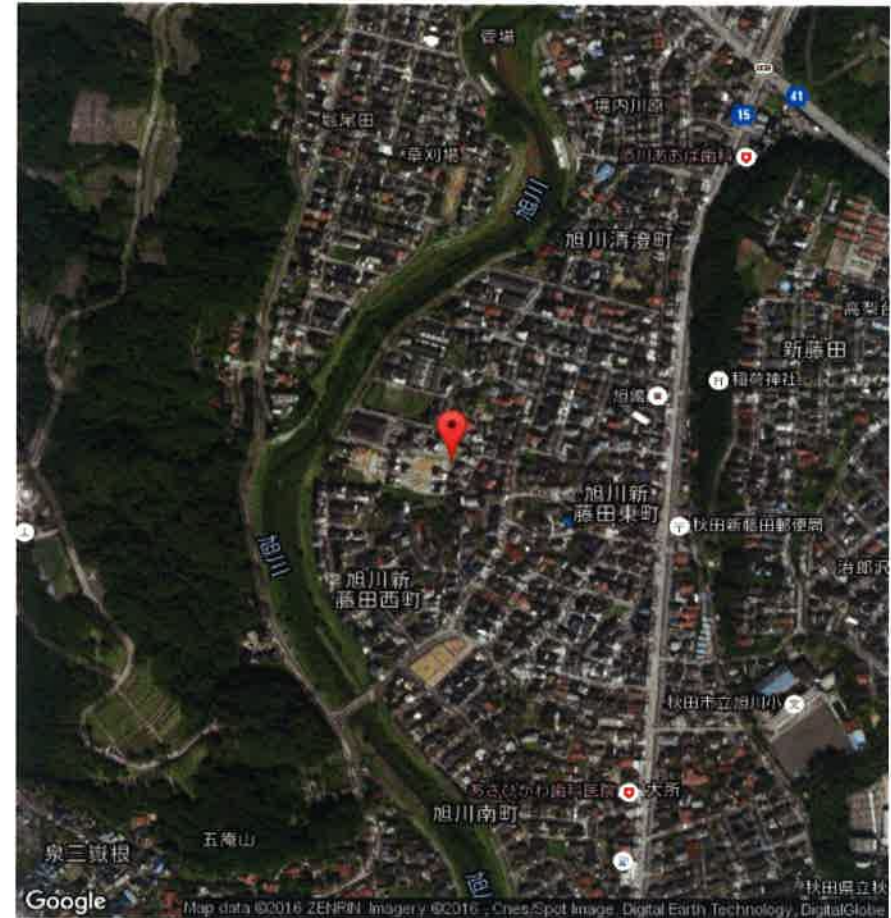
今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率が

- 危険度E: 確率が 50%以上
- 危険度A: 確率が 26%以上 50%未満
- 危険度B: 確率が 6%以上 26%未満
- 危険度C: 確率が 3%以上 6%未満
- 危険度D: 確率が 0.1%以上 3%未満
- 危険度E: 確率が 0.1%未満

表1 24時間降水量と災害発生との対応※

24時間降水量 (mm)	降雨のイメージ	災害発生状況
50~100 100~150	大よそ、しとしと降るが、時として、ザーザーと降る	災害発生の危険度はそれほど高くない
150~250	大よそ、しとしと降るが、時として、バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる
250~400	ザーザー降りの雨が比較的長く続き、時として、滝のように降る	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 マンホールから水が噴出する。土石流など多くの災害が発生する。
400~	滝のような雨が比較的長く続く	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、嚴重な警戒が必要

※ 気象庁 雨の強さと降り方 ([http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo\\_hp/amehyo.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/amehyo.html)) を参考に、東京海上日動リスクコンサルティング(株)が作成



〒100-8050

東京都千代田区丸の内1-2-1 東京海上日動ビル○階 東京海上日動火災保険株式会社

住所：茨城県常総市三坂町  
 経度：139.982 緯度：36.074

## 24時間降水量に基づく水災危険度診断

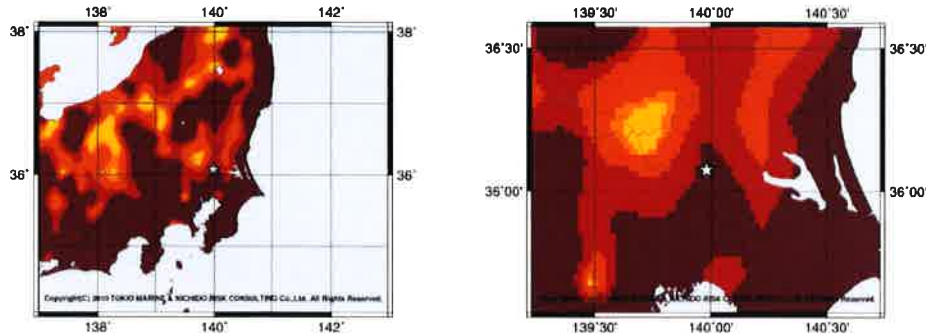


図1 今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率の分布図※

今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率

危険度E	危険度D	危険度C	危険度B	危険度A	危険度S
0%	0.1%	3%	6%	26%	50%

※ 出典：気象庁による異常気象リスクマップデータ (<http://www.data.kishou.go.jp/climate/riskmap/dbindex.html>) を元に東京海上日動リスクコンサルティング㈱が作成

### 危険度 S

今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率は、約55%です。

(降水量に基づく診断結果であり、診断地点と周辺地域の高低差や地域の排水能力、周辺河川の状態などは考慮していません)

#### ＜危険度の定義＞

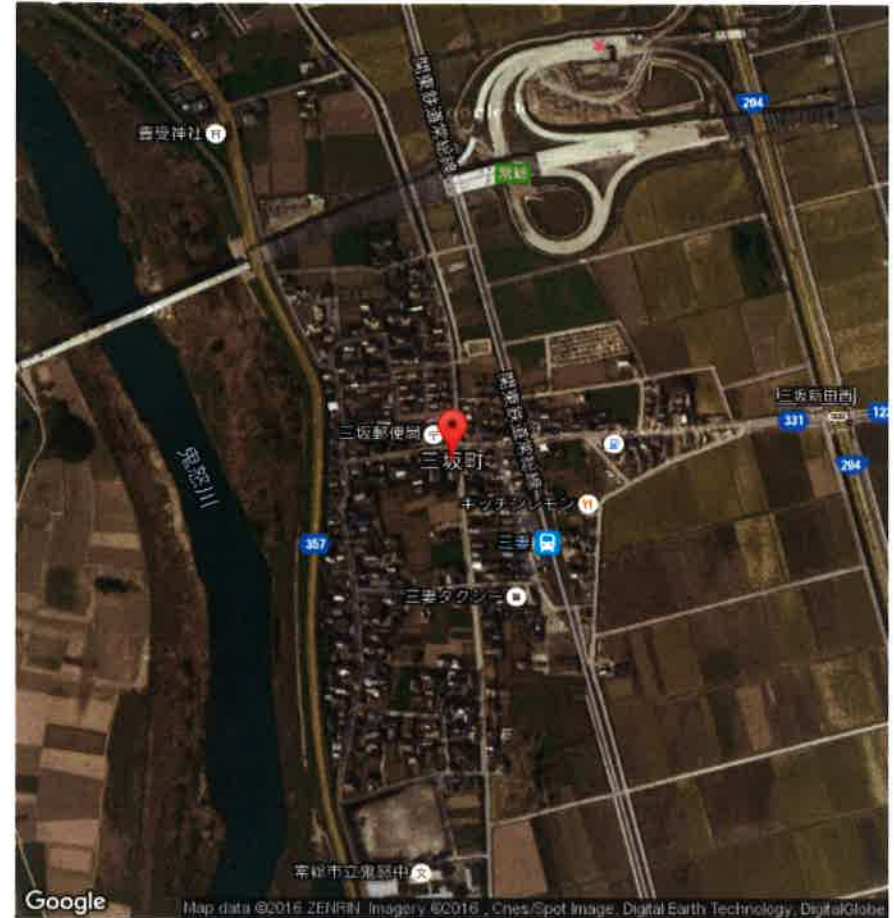
今後30年以内に24時間降水量が250mm以上となる降雨に見舞われる確率が

- 危険度S: 確率が 50%以上
- 危険度A: 確率が 26%以上 50%未満
- 危険度B: 確率が 6%以上 26%未満
- 危険度C: 確率が 3%以上 6%未満
- 危険度D: 確率が 0.1%以上 3%未満
- 危険度E: 確率が 0.1%未満

表1 24時間降水量と災害発生との対応※

24時間降水量 (mm)	降雨のイメージ	災害発生状況
50~100	大よそ、しとしと降るが、時として、ザーザーと降る	災害発生の危険度はそれほど高くない
100~150	大よそ、しとしと降るが、時として、バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる
250~400	ザーザー降りの雨が比較的長く続き、時として、滝のように降る	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 マンホールから水が噴出する。土石流など多くの災害が発生する。
400~	滝のような雨が比較的長く続く	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

※※ 気象庁 雨の強さと降り方 ([http://www.jma.go.jp/jma/klshou/known/yougo\\_hp/amehyo.html](http://www.jma.go.jp/jma/klshou/known/yougo_hp/amehyo.html)) を参考に、東京海上日動リスクコンサルティング㈱が作成



〒100-8050  
 東京都千代田区丸の内1-2-1 東京海上日動ビル〇階 東京海上日動火災保険株式会社